

古文書の保存状態の良さに驚き！



初の「ワークショップ」を開催しました

文書館では、初めての試みとなるワークショップを、5月9日に公民館講堂で開催しました。講師は、小布施史料調査会のメンバーとして、平成10年から町内の歴史資料を調査されてきた横浜国立大学教授の多和田雅保さんをお迎えしました。

今回は、「古文書からみえる小布施の生活文化①-宿(ヤド)・古着・市場(イチバ)-」と題して、文書館に寄託されている「平松家文書」を題材に、実際に多和田先生に解説をいただきながら、当時の小布施人の暮らしに思いを馳せました。

このうち元治元年(1864)9月の平松家文書(4-10-13)の現代語訳(加筆あり)を紹介します。「右の者、(すなわち)高井郡小布施村三吉が申し上げます。私は、農作業のあいまに「古着渡世」をしてきましたが、今年の二月のうちに、水内郡善光寺の街はずれの武井小路の森吉というものが、「横かご」(=辞典なし)でなりわいを立てていて、一、二年前からわが村へ出たり入ったりして商売をしており、(森吉は私の)知り合いだったので、同人から「四布半」の古布団を一つと、古い女用の綿入れ(着物)を一つ、代金三歩と五〇〇文で買って自分の所有物とし、それからのち、中野商人仲間へ、「糶品物」のなかに加え入れて売って渡したところ、このたび(松代役所側から)調査が入って、(松代役所に)呼

び出され、(松代役所から)お尋ねを受けたところ、右の森吉は現在無宿であって、(私が)買って自分の所有物とした二品は正しくない品であるということを行い聞かされ、初めてそのことを知って、すっかり驚いてしまい、申し訳なく存じます。帳簿を(私が)調べたところ、日にちも経過してしまっている品物はどうせ先のほうへ先のほうへと転売されてしまっているだろうと存じ、綿密な調査は行き届かないので、どうか今年の二月のうちに買って自分の所有物とした際の代金を差上げますので、それで御承諾いただきたくお願い申し上げます。以上の三分五〇〇文を上納します。以上。」

善光寺町から小布施へ、そして中野商人仲間へ次々と転売される古着のことが記され、小布施に多くの人々が入り出すということが、当時の地域の生活を支えた一面がうかがえます。

【第2回ワークショップ開催決定！】

「古文書からみえる小布施の生活文化②」

日時 11月28日(土) 午後3時～5時

会場 小布施町公民館3階 講堂

講師 横浜国立大学教授 多和田雅保さん

水のまち小布施～絵図から読むまちの仕組み

— 文書館講演会を開催します —

日時 9月11日(金) 午後6時30分～8時30分

会場 小布施町公民館3階 講堂

講師 東京理科大学工学部建築学科助教

水野貴博さん



※ 受講料は無料で、申込みは不要です。お気軽にお出かけください。

写真: 谷脇街道(現横町)の水路で洗い物をする少年
大正～昭和初期頃
(内山家写真)

小布施町

文書館

開館時間 午前9時～午後5時 休館日 毎週日・月曜日、祝日、年末年始
長野県上高井郡小布施町大字小布施 1491-2(小布施町役場3階)

Tel. 026-214-9114 e-mail : archives@town.obuse.nagano.jp